

## 第6回長野市総合計画審議会作業部会 会議録（要旨）

日時 平成18年2月1日（水）午後1時30分から

場所 第一庁舎8階 第三委員会室

（内山部会員、倉田部会員、今井部会員、坂西部会員欠席）

議事（1）第3回長野市総合計画審議会について（報告）

議事（2）基本構想施策の大綱素案たたき台（福祉部会関係）について

部会長

前回まとめたものを審議会に出したが、表現方法を統一した方がよいのではないかと  
いうご意見もいただいている。前と同じように6ページ、7ページについて個々に進め  
ていきたいと思う。

まず、1番についてだが、表現方法の統一の視点で中タイトルについて提案されてい  
るが、これらを含めてご意見をいただきたい。また、施策の視点の順番も5番の人権の  
順番との関係でよいか、最後に聞きたいと思う。

1番の中タイトルの（充実）とはどういうことか。

事務局

先ほど説明した語句の定義で、整備と充実には違いがある。当然今やっていないわけ  
ではないので、充実も一つの案として括弧書きをした。

部会員

1番から5番までの内容は並列ではあるが、国でも少子化対策の担当大臣を置いたこ  
とからも、子どもの環境や子育ての環境は強い表現をしたほうがよいという印象がある  
ので、整備のほうが良い。また、最初の箇条書きで、「連携を図りながら」はやさしい  
ような気がする。強い連携を表現し、「推進」のような言葉がよいのではないか。

部会員

連携は、「図りながら」で十分通じるのではないか。

最初の「健やかに暮らし認めあい支えあうまち」と「あい」がひらがなだと、読みづ  
らい。言葉の響きは大変よいと思う。

部会長

大タイトルの意見が出ましたので、それについていかがか。

部会員

確かに「あい」「あう」は漢字の方が見やすいような気がする。

部会長

下の案で「あい」「あう」を「合い」「合う」と漢字することでよいか。

（了承）

部会長

続いて、まちづくりの方向性についてはいかがか。

(意見なし、了承)

部会長

では、続いて1番の中タイトルについては、「環境の整備」ということでした。その下の「連携を図りながら」については、弱いのではないかというご意見とこのままでよいのではというご意見があるが、いかがか。

部会員

「図りながら」でも話は通じるが、行政にやってもらいたい、実際に予算をつけてやっていくという意味で「推進」などの方がよい。

部会長

事務局どうか。

事務局

「図りながら」は、「行う」とか「する」と同じ意味合いがあり、今までの骨子だと、「連携により環境を整備」という一つの文章と解釈していたが、一つの案としては、「連携を推進するとともに」というように、「連携の推進」がひとつの方向性として強調することも考えられる。また、「連携を推進しながら」という表現もある。

部会員

もう少し「行政」を強調できないか。地域や事業者はもちろんだが、政府のスタンスがどうだというように、強力に出てこないと子育ては難しい。行政がある程度まで踏み込んでいかないと少子化問題は解決しない。長野市だけの議論ではないが、やはり基盤づくりを国や行政が進めないといけない。

部会長

では、上の箇条書きの「図る」は「推進」としていくことでよいか。

部会員

「地域、事業者、NPO及び行政等」は並列なので、行政を前面に出すとすれば「地域、事業者、NPOはもとより行政等との」のように出し方を変えていくことで行政を強める表現を考えるのはどうか。

専門部会員

長野市は、次世代育成支援行動計画を昨年策定し、国主導の施策としてやっているが、自治体として計画を作っていく中で、役割分担という考え方がある。10年間の時限立法で5年ごとの前期と後期の行動計画の前期行動計画がスタートしたが、その中では、地域、事業者、NPO、行政の関係は、等しく同じ立場にあるという考え方である。それぞれが役割を持っていて、市が目標達成を取りまとめることになっているので、市が主導的にしっかりやるべきという意見も理解できるが、事業者にも行動計画策定の義務付けもあるので、ここで行政を強く出すのはどうかと思う。ただし、「連携を図りながら」はそのまま流れてしまう感じがあるので、その辺は強めていくことは必要かもしれない。

部会長

環境づくりを行政が主導して欲しいというところがねらいである。

専門部会員

子育て支援、教育関係、保健関係、子どもを育てやすいまちづくり、住宅関係、交通事故や犯罪に対する安全なまちなど、市が関わっている業務全般において行動計画になっている。従って、地域も事業者もNPOもそれぞれに役割分担があり、同じように行政も役割を持つという位置付けでよいと思う。ただ、連携はしっかりやっていかなければいけない。

部会長

委員からは、行政の方が先で環境づくり、推進が必要だろうということでしたが、並列のこの表現でよいか。

専門部会員

もう一点。子育て支援を少子化対策に結び付けて考えていくことは、一般的には財政的なことから国主導となってしまうと言われている。

部会長

長野市がモデルとなるようにできればいいが。

部会員

事業者というと、なかなか難しい。保育園に預けても風邪をひいたらすぐ迎えに来いということもある。孫の面倒も高齢になるとなかなか難しい。病気になってもなかなか休めない。ある程度までは、国や行政が関わっていただきたい。長野市だけではなく何か制度を作っていないといけないのではないか。また晩婚や親と同居していないなど少子化にはいろいろ影響しているとも思う。

部会長

ここだけ、行政がでるのも問題があるかもしれない。今の意見を頭に入れて事務局で整理していただくことでよいか。

(了承)

部会長

続いて2番の関係につきまして、中タイトルと網掛け部分はいかがか。

専門部会員

中タイトルの「形成」についても、他との表現方法の統一からよいかと思う。また、最初の箇条書きは、これからのキーワードであり地域で支え合っていく部分であるし、その他もこれでよいと思う。

部会長

2番については、よろしいか。

(了承)

部会長

3番についていかがか。自分らしく生きられる社会については、前回意見をいただいたところだが。

部会員

良いと思う。

部会長

3番については、よろしいか。

(了承)

部会長

続いて4番についていかがか。中タイトルは、生涯健康づくりの推進としてあるが。

部会員

全般的な内容については良いが、市民病院が新しくなり、救急体制もリニューアルする中で、今まで長野市がやっていた医療環境は十分足りていたかどうか、今までの継承ではなく、もう少し違う視点が入ってリニューアルしたものが欲しい。一般社会人にとっては、健康は大きな関心事だが、もう少し市の関与を出したらどうか。箇条書きの2番目は、普通の話であり、今までと同じことをやっていくのかと感じる。医療機関との連携はそんなに強化しなくていいと思うが、どう直すかは浮かばない。

部会員

「だれもが安心して医療が受けられる」は今安心して受けられないのか、というように取られてしまう。この「安心して」とはどういう意味なのか。

専門部会員

医療体制は、行政だけでできるものではなく、医療機関との連携協力があって初めてできていくものと思う。市民病院の救急部門が充実することは、今までよりも医療を安心して受けられる体制のひとつの実現だと思う。

部会員

疑問なのは、どういう安心を一市民に与えてくれるのか、ということである。

専門部会員

セカンドオピニオンが強く言われるようになったが、一箇所の医療機関に通っていた今までは違い、医療が高度化し、患者本人も医療に対する知識・情報が深くなると同時に、医療機関もそれに対応した医療を考えていかなければならない。そのことを行政が医療機関と連携を図って、例えばセカンドオピニオンがよりスムーズにいくというような意味で、長野市が医療機関等との連携を推進して、だれもが安心して医療を受けられる体制を、今も行っているがさらに充実していくということが書かれている。一般的な言い方だがいろいろな意味が含まれていて、いろいろ活動できる表現かと考えている。

部会員

早期治療から予防が中心になってきているので、一つ目はよいと思う。二つ目の部分は、「医療環境の安全性を確立し、関係機関等との連携を図る」のような表現はどうか。医療についてとかハード面についてとかの物的なものに対しての安全安心が取りざたされている時代であり、先ほどのセカンドオピニオンもそうだが、安心の部分を確認す

るのは医者もそうだが、救急は医療機関の業務ではなく、市の業務だと思う。そこに医療機関がお手伝いしている。その辺に配慮して、「医療環境の安全性を市がしっかり確立する」といった意味合いを入れて欲しい。

部会長

項目を増やすか。

部会員

二つ目の中で表現できればよいと思う。

部会長

救急を市民病院に移すようだが。

専門部会員

日赤の中に、急病センターがあるが、その機能を市民病院に移す。

部会員

今までの話で分かったが、「医療環境の安全を確立すべく医療機関等との連携を推進し」という言葉が入ってくれば、ずいぶん違う。どういうためにを入れることによって明確になるので、付け加えたらどうか。

部会員

今のままでは、市民は何を言っているのか分からない。説明を聞いて分かった。

部会員

「医療環境の安全を確立するために」といった言葉か。

部会員

どこが安心できないかについては、今小児科医が不足している、また救急で入っても在院日数が限られ短期で病院を出なければならぬ。転院先の病院は、医療機関が見つめてくれる場合もあるし、腕のいいソーシャルワーカーがいればその後も保障してくれるが、患者自身にまかされていることが多い。またそれ以前に救急でない場合でも医療機関の情報が、一般には入手しにくい。すると名声の高い医者ところに患者が集中するようになる。高齢者がベットを占領する傾向がある。子どもの医療も、情報のことも、高齢者の医療もすごく変わるので、変わる方向性のことではなく、一般の人はずごく分かり難くなっている。そういう意味で、安心して医療が受けられるのか、ということはある。それを環境という言葉で置き換えるかはまだ思い浮かばないが、それらのことを書いた上で、長野市は改善していくということ表現すれば分かりやすくなるのではないか。

専門部会員

市民病院の話が出たので、実態を話したい。市民病院では、出前講座のメニューが20あって、平成17年度開始してこれまでに34回行っている。市民病院は、北部地域の中核となる病院としての地域医療を目指している。市民に話しているのは、すぐ大きな病院に行くのではなく、まずかかりつけ医を持っていただくことを推進している。そこでできない医療は市民病院への紹介状で高度専門医療を受け、また高度専門医療が終

わると逆紹介という形で戻すことを推進している。また、どこの病院にどういう医療が提供されているか、大切なのは情報の提供だと思っており、市民病院では、ホームページで情報の発信を行っている。それから開業医との病診連携と高度専門医療が終わったときの病院同士の連携を強化していかないといけない。従って「医療機関との連携」の中には、双方向の情報の提供や紹介、逆紹介なども強化していかなければならないことがある。一方患者さんが理解してくれるかどうか、一度総合病院にかかってしまうと逆紹介をしても、なかなか理解していただけない。理解していただけるような情報、知識の提供を、病院としてやっていかなければいけないと考えている。

部会員

医者がないとか、施設がないとか、検査の機会がないなどのハード的なものと、こういう時にはどこに行った方がよいとか、先ほどのセカンドオピニオンも情報提供などいろいろな要素があるので、「医療社会」でも「医療環境」でもいいが、その安心性、信頼性を表現し、「医療環境の安全性を市が確立し、医療機関等との連携を推進し、」というように、医療環境の安全性を確立するのは市が行うことを明示して欲しい。

部会員

先ほどの小児科医も足りないなどの社会で、行政としてできることできないことがあるが、そういう方面を充実することが、安心につながると思う。

部会長

今までの意見から事務局で整理して欲しい。若者は携帯など持っているが、医者にかかるのは高齢者が多いので、その辺も考慮して欲しい。

部会員

情報が飛び交っていても、機器がないと得られない。だれでも受けられる情報の提供が大切であり、工夫して欲しい。

部会長

4番については、今までの意見を入れながら、事務局で整理することでよいか。

(了承)

部会長

続いて5番についていかがか。この人権の関係については、福祉部会でよいのか、というご意見もありますが、いかがか。

専門部会員

今までの議論では、子どもから高齢者まですべてにわたっており、最後の5番にあるのもよいが、現行の第三次総合計画では一番初めにある。これを第四次で変えることについては、委員の皆さんの総合的な判断、ご意見によると思う。

専門部会員

5番をどこに持っていくかは、また議論していただきたい。文言については、人権教育は意識や気持ちの部分があり、研修や啓発が必要であるが、「実現を目指します」の方が行動力が表れると感じるので良いと思う。人権教育の啓発推進法の中にも「人権が

尊重される社会の実現に寄与する」という表現が使われている。

専門部会員

男女共同参画社会の実現は、元気なまちづくりをしていく上で、根底になければならぬものなので、福祉の部分にだけ置いておくのは少し違うのではないかと感じている。また、「実現を目指します」と変えることについては、後期基本計画にも謳われているが、女性の参画を40%にしたいと出ているし、今年からスタートしている男女共同参画基本計画の中でも平成21年度には40%を掲げているので、実現していくというしっかりとした気持ちが表れていてよい。

部会長

例えばどこにもっていったらよいか。

専門部会員

福祉面や経済面などいろいろなところに関係している。

部会員

人権をトップに持ってくることは、ひとつの考え方だと思うが、この分野に入る意味は、個別に人権についてこういう問題があって、この問題について長野市はこう考えるので、こういう施策を考えていくということで、個別具体的に施策に結びつける際に、ここに置いた方が、分かりやすい感じがする。分野を越えて置くと、どこの施策に結びついていくか迷ってしまう。ただし、男女の問題は、子どもや高齢者や障害者の問題と違うので、ここにあることが少し引っかかるかもしれない。

部会員

まだまだ会社の人達には男女共同参画の意識は浸透していない。女性が仕事を続けることの大変さは、しっかりした意識が下の方まで降りてきていないので、大変な立場に置かれているのであって、職場の中で子どもが具合が悪いから休みをとりたいと思っても、母親の方が休みをとる回数が多くなり、会社の方がいい顔をしないということがあがる。広い意味での人権意識の問題がまだあると思う。

部会員

そういう意味で、男女差別、人間的な差別ということを含めてこの5番に入れるのは良いと思う。「いきいきと産業が育ち賑わいと活力あふれるまち」の5番「人材の育成と雇用機会の確保」の中で女性の就業支援と入ってくるので、福祉としてもそういうことを考えると市民に訴えかける意味から、この場所でよいと思う。

部会長

福祉部会としては、人権関係はここに置いておくということでよいか。また表現についてもよいか。

(了承)

部会長

また事務局で、まとめていただきたい。

### 議事(3)基本構想行政経営の方針素案たたき台について

部会長

全体の話として、審議会で議論する部分ですが、ご意見あったらお願いしたい。

部会員

2番の「自立した」を削除して「自己決定・自己責任による」の「自己責任」という表現は、「あなたが失敗したら知らないよ」というニュアンスを感じる。自立ということが、自己決定・自己責任ということであるのは理解しているが、あえて書かれると引いてしまう。

事務局

これは自治の本旨であり、任せっぱなしで冷たいというご意見ですが、活動に向けて行政が積極的に支援してくということで、表題の「地域の個性をいかした住民自治」を推進していきたい。

部会員

十分理解しているが、活字になるとそう感じるというだけで、中身については良い。

部会長

かえって「自立」の方が良いかもしれない。また全体の中で意見を出して議論していきたい。他にはいかがか。

(なし)

### その他(1)市民フォーラム2 1各作業部会における検討分野の整理と全体構成について

部会長

斎場は、保健所が担当か。

専門部会員

保健所では生活衛生課が担当している。

部会長

何かご意見あるか。なければ、これからの検討の中でまたご意見をいただくことにする。

事務局

本日の議論については、整理させていただき、次回素案として審議会へ上げていくための議論をお願いしたい。

部会長

本日は、これで終了します。